

昔からの遊び

現在の學

柳沢は、酪農がとても盛んなところですが、牛舎やサイロなどの敷設が、たいへん不便で、牛を飼育しています。今では、家々を結ぶ道路も整備され、広い牧草場が広がっています。しかし、このように現在の酪農にたどり着くまでには、大変な苦労があったようですよ。酪農家の人は、沢尻川から岩手山神社に続く登山道は、草道はなく、あたりは林で木が生い茂っていました。そこで木の一本一本を手作業で切り開き、手作業で、牧草地や畑を起し、牧草地や畑を敷いた。こうして開拓が始まりました。年



それで、昭和二十七年に、乳牛を飼う人が出ても、牛飼いは頭数が増え、やうやうとした産額ではな、苦しいと言へるほどの仕事でした。

三十三年頃から、品種のいい乳牛に変わつていきました。しかし、その牛は、個人で持つてゐる牛ではな、けりて飼つてゐる牛です。この頃には、牛舎も、建つていました。

三十五年には、牛を自分で買へるやうになつて、ました。牛の世話は、一日の畑仕事から、その後のやうなもので、とても大變だといふです。

四十三年には、牛んばを作、田んぼ、鶏、牛と、多角農業を始めました。牛の世話だけでなく、田んぼ

豆を作ったり、畑にして豆や、小
 羽を飼ひ、鶏を生きて生活して
 いまいます。鶴の卵は貴重で収
 入源だったそうです。
 昭和二十五年に牛（農耕
 用）を飼ひ始める人が増えて
 きました。この頃は、一人や
 二人頭は飼えなかったので、市
 からもって飼っていたのです。
 うです。

たぐきんに卵を生ませせて、その鶏に巣を生ませて、その卵を盛岡まで歩いて持っていき、盛岡の人達に売って貰いました。その卵はとてまあいい味です。

盛んこのようにして、諸農の苦労によつて、つくられたてきました。また、今私たちが暮らしている風景光明な景色も、柳沢の開拓した歴史の中でつくられてきました。昔の苦労を思い、ついで農家が盛んな柳沢、牧草地、山の風景を残していきたいです。

の仕事を、鶏の世話をするということは、今では、あまり考えられないくらい、とても大変だったそうです。

昔、人間の体の中には尺
(しゆ)という虫が三匹い
るといわれていました。そ
の虫が、陰暦の二十三日の
夜に人間の体の中から飛び

てみて下さい。岩山神社から、奥道を
目下二石碑があり、赤い鳥居を
くわいて石碑は庚申供養塔（二つ
の石碑はくよくよとう）と呼ばれ
るを乗っているの道し、分
かれない道や、集落のほうすれに
必ず立っているのほうです。
誰が終わった時に記念に立
てるこの庚申供養塔は、一
つこの地には、市街地に入
造られました。さて、その人
村氏、平兵衛、為吉、久兵
衛、他（他は読み方不明）
者前）右のほうには、石入
寺道。左のほうには、庄八
石碑に打たれたと云うです。
そして、いまは道のほうはし
つにありますが、下の亭裏
で指しているあたが、下の亭
と云うです。それに伴って、
道も下の亭裏と云う、手前

▼下の写真は、サイロというえさを入れるためのものです。この中には、デントコーンなどのえさが1トン以上入っています。



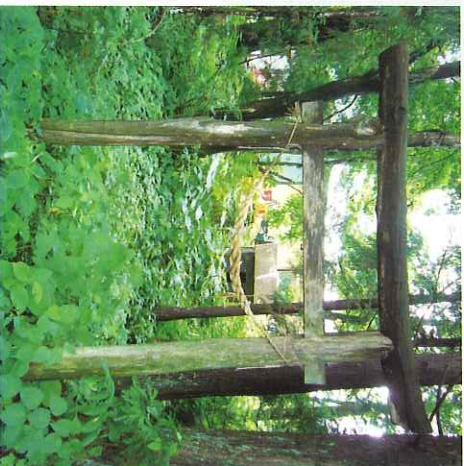
▼下の写真は、ほくらです。この中に馬頭観音が祭られています。



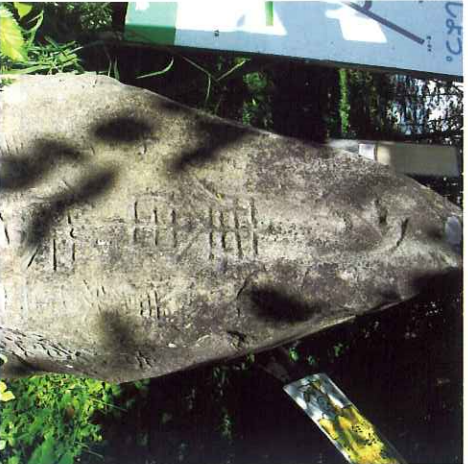
▼雄は白、雌は茶色をしています。この鴉達の卵は、現在も盛岡方面で販売されています。卵の殻は茶色で、風味と新鮮さが好評です。皆さんの食卓にもすでに登場しているかも？



▼ほこらの入り口にある鳥居です。いつ頃立てられたものなのか、全体にコケが生えていて、上の方はボロボロでした。



左の写真は、庚申供養塔の石碑です。文字が読めないものもあります。読めても、旧字体なので難しかったです。



柳沢

五手神社

2
5
1
2
2
2
1
5
1
2

[illegible]

天に上つてその人の考えて
いる悪巧みを、天の神様にお
告するといわれていました。
御節の人たちは、「そんな」
と考まつては、「だまらない」
と集まつて、その時、部落の全
員が集まり、それから二ヶ月
に一回、御節のことに二ヶ月
話し合いを始めるようにし
なつたそうです。

↑もとほここにあったそうです

柳沢